

企業名： 島津製作所

レポート名： 統合報告書 2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

会社が目指す将来の姿というのは、統合報告書の最初の代表取締役社長からのトップメッセージという項目に述べられている。そこには代表取締役社長の学生時代の夢が語られており、社員が互いの夢に共感し合いながら、その夢の実現に向けて努力する会社になりたいと述べられている。また、お客様に対しては、世界中のお客様に島津製作所があって良かったと言ってもらえるような会社になりたいと述べられている。このように、会社が目指す大枠の理念というものがはっきりと定められており、会社が目指す将来の姿というのが見えてくる。また、事業に関しては、より具体的に島津グループサステナビリティ憲章というものを制定して、地球環境とグローバル社会の持続実現や、従業員の健康維持というものも掲げられている。

以上のことをまとめると、島津製作所は地球環境とグローバル社会、また従業員を守りながら、夢の実現に向けて共感し、努力する会社を目指しているのだと分かり、この会社が目指している将来の姿は十分に理解できる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

まずこの会社の財務的な面での競争優位性は上がり続ける配当金にあると思う。ここ四年間で島津製作所の当期純利益はかなり急激に伸び続けており、それに伴って配当金は9期連続で増加しているようである。伸び続ける配当金は、ますますの投資を呼ぶことになり、他社との競争において有利に働くと言えるだろう。これだけ売上や営業利益、当期純利益、配当金などが伸び続ける会社というのはそれほど多くないだろうと考えられ、これは他社と競争において優位性を発揮しているということであろう。

また統合報告書から分かる非財務的な面での競争優位性では、二酸化炭素排出量の削減貢献があげられる。島津製作所は直近5年間で自社の二酸化炭素排出量をおよそ5分の1にまで削減しており、サステナビリティを掲げる会社としての責任を果たしていると言えるだろう。これは近年持続可能な発展が強く唱えられていることを考えると、非常に印象が良く、競争に優位になると考えられる。

以上より、統合報告書から、財務的な面と、非財務的な面において会社の競争優位性を理解することができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

まず過去5年間のデータを見ても、島津製作所の業績は伸び続けており、今後も伸び続け

るとある程度予想される。また、2022年には掲げていた目標をしっかりと達成しており、目標設定に無理のないことも読み取れる。そのような中で島津製作所の競争優位性が持続しそうであると考えられるのは、島津製作所がサステナビリティを重要視しているためだ。おそらく、パリ協定などにあるようにこれからは企業にも二酸化炭素の排出を抑えることがかなり強く求められるようになるであろう。しかし、島津製作所は現時点ですでに二酸化炭素の排出量を抑えることに成功しており、二酸化炭素の排出を抑えた上で事業を展開することができるため、今後も競争優位性を確保しながら発展していくことが望めるだろう。またこの統合報告書の中で、新たに中期の経営計画が示されており、サステナビリティを全面に押し出していることから、現在の競争優位性に持続性がありそうだとすることが理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

この統合報告書で、この会社が目指す人的資本というのがはっきりと述べられていた。この会社が目指すのは、多様なパートナーと社会問題の解決に向けてイノベーションをリードする人材を育成することであった。目標がしっかりと設定されていることで、人的資本の価値向上というところで軸がぶれず、良い点だと考えられる。また実際に達成できるのか疑問となるが、統合報告書の中では島津製作所の強みも明示されていた。これを見ると、この会社で、顧客課題解決に必要な専門性を学び、幅広い顧客層の理解や専門的知識・スキルを手に入れることができると理解できる。そのために行われていることとして、経営幹部育成プログラムや、ビジネスリーダー育成研修、島津 Leadership&Diversity 研修などが統合報告書の中であげられている。

明確な人材育成目標が定められ、人材育成において強みとなる部分を持ち、具体的な育成プログラムもあることから、この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると考えられる。

5. 報告書の良かった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書の良かった点は過去のデータの振り返りと、今後の目標の設定が具体的にされていた点だ。過去のデータを示すことで、統合報告書を見る側にとっては、それが説得力になるし、しっかり過去できなかった課題まで示されていることで、その過去のデータが良い部分だけの切り抜きではないと分かり、説得力が増す。また、その過去のデータに基づいて今後の事業戦略が具体的に示されており、この企業が実際に何に取り組んで、目標を達成しようとするのか、理解することができる。そして最後に目標が具体的に設定されていることによって、統合報告書を見る側がこの企業は何を達成できるのかを理解することができると思われる。

逆に改善余地があったのは、図表が少し見づらかった点だ。事業のところで専門的な話のところには図などを用いて説明しているのだが、それが少し細かくて、矢印が様々な

方向に向いているので理解するのが難しく感じた。専門的な話なので細かくなってしまうのは仕方が無く、読む人がそこまで気にする必要は無いのかもしれないが、事業の説明がもっとわかりやすくなれば、もっと統合報告書を見る人の興味を引くことができるのではないかと感じた。